

北京市における物流基地（団地）の 現状と課題—その2

矢野 裕児
米 娜

はじめに

本論文は、流通経済大学物流科学研究所「物流問題研究No49」2007年5月において発表した「北京市における物流基地（団地）の現状と課題—その1」の続編である。その1では、1.北京市の経済、産業と物流の概況、2.北京市の都市、交通と物流の概況、3.中国における物流基地（団地）の現状を整理し、さらに4.北京市における物流計画の内容について説明した。しかしながら、4.北京市における物流計画の内容は、論文掲載当時の「北京市商業物流開発計画（2002-2010年）」に基づき、北京市の概況、物流基地（団地）の概況、総合物流配送区、專業物流配送区の概況を検討したものであった。

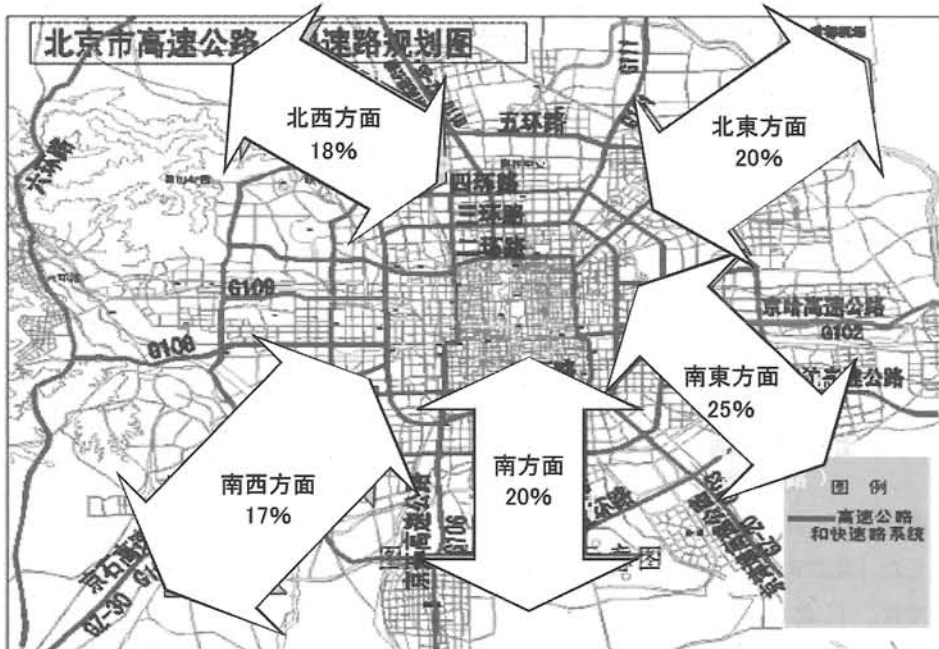
その後2007年後半、北京市は「北京市第十一次五ヵ年物流開発計画」を公布した。その中で、物流基地（団地）、総合物流配送区、專業物流配送区の計画についても、見直しを行った。そのため、本論文では、「北京市第十一次五ヵ年物流開発計画」に基づき、北京市の概況、物流基地（団地）、総合物流配送区、專業物流配送区を検討していくこととする。すなわち、4.北京市における物流計画の内容(1)(2)は、「北京市商業物流開発計画（2002-2010年）」に基づいたものであり、本論文の(3)以降は、「北京市第十一次五ヵ年物流開発計画」に基づき、記述することにする。

4. 北京市における物流計画の内容

(3) 「北京市第十一次五ヵ年物流開発計画」における北京市の物流需要の概況

北京市の2005年の社会物流総額は7,400億元となり、2004年に比べ、約8%増加している。物流量も4億トン余りに達し、2004年と比べ、約3%増えている。道路、鉄道、航空の輸送機関分担率はそれぞれ92.5%、7.3%、0.2%である。

図4-2 北京市の物流量



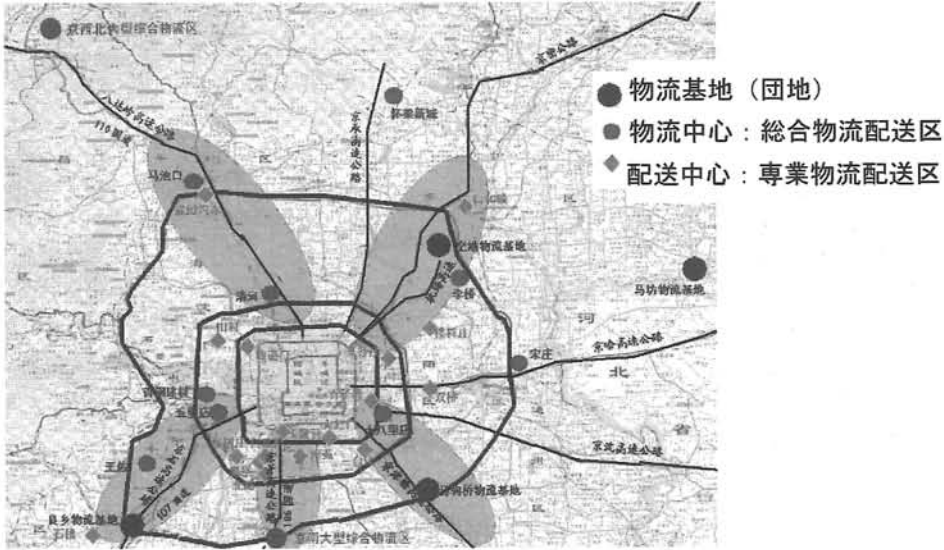
出典：「北京市第十一次五ヵ年物流開発計画」より作成
 注：線は高速道路と快速道路を示す。

北京市は、道路、鉄道の各交通ネットワークが整備され、航空も含めた交通での重要な中枢都市となっている。北京市の物流は、5つの方面に集中している。南西方面（京石高速道路，107国道）は全市物流量の17%，南方面（京開高速道路，106国道）は20%，南東方面（京津塘高速道路，京瀋高速道路）は25%，北東方面（京密道路，空港高速道路，京承高速道路）は20%，北西方面（八達嶺高速道路，110国道）は18%をそれぞれ占めている。また、北京市には、3ヶ所の国家レベルの開発区と16ヶ所の市レベルの開発区がある。主な開発区は、亦庄経済技術開発区、天竺工業開発区、通州工業開発区であり、これらの開発区は全市製造業の50%を占めている。

(4) 「北京市第十一次五ヵ年物流開発計画」における物流基地（団地）、総合物流配送区、專業物流配送区の概況

「北京市商業物流開発計画（2002-2010年）」では、2010年までに、3ヶ所の物流基地（団地）の整備、4ヶ所の総合物流配送区及び13ヶ所の專業物流配送区についての既存施設の再整備の計画を策定していた。新たに策定された「北京市第十一次五ヵ年物流開発計画」では、4ヶ所の物流基地（団地）の整備、9ヶ所の総合物流配送区及び15ヶ所

図4-3 物流基地（団地），総合物流配送区，專業物流配送区の分布



出典：「北京市第十一次五ヵ年物流開発計画」より作成

の專業物流配送区についての既存施設の再整備の計画を策定している。

・ 物流基地（団地）

空港物流基地，馬駒橋物流基地，良郷物流基地，馬坊物流基地を計画的に整備することとしている。空港物流基地は北東方面六環路，馬駒橋物流基地は遠郊区，良郷物流基地は南西方面六環路，馬坊物流基地は遠郊区にそれぞれ位置する。

・ 総合物流配送区

豊台区の王佐，五里店，首鋼建材物流センター，朝陽区の十八里店，通州区の宋庄，懷柔区の新城，順義区の李橋，海淀区の清河，昌平区の馬池口の9ヶ所の総合物流配送区を計画的に整備することとしている。

・ 專業物流配送区

房山区の石樓，豊台区の榆樹庄，白盆窑，南苑，大紅門，玉泉宮，朝陽区の双橋，百子湾，三台山，樓梓庄，豆各庄，順義区の仁和鎮，海淀区の田村，四道口，昌平区の福田自動車配送センターの15ヶ所の專業物流配送区を計画的に整備することとしている。

① 物流基地（団地）計画の内容

空港物流基地，馬駒橋物流基地，良郷物流基地を優先的に整備し，馬坊物流基地についても迅速に育成することとしている。なお，馬駒橋物流基地は「北京市商業物流開發計画（2002-2010年）」では，通州物流基地と呼ばれていたものである。

表4-2 「北京市第十一次五ヵ年物流開発計画」における物流基地（団地）の概況

	空港物流基地	馬駒橋物流基地	良郷物流基地	馬坊物流基地
建設開始時期	2002年	2002年	2003年	2004年
位置	順義区天竺鎮	通州区馬駒橋鎮	房山区閻村鎮	平谷区馬坊鎮
計画面積	6.2km ² 第1期1.55km ²	5.04km ² 第1期2.5km ²	3.3km ²	3 km ²
交通条件	首都空港、順平路の北側、101国道、北六環路に近接	京津塘高速道路の東側、南六環路の北側	京広鉄道、京石高速道路、101国道、六環路に接続	京津高速道路、京哈高速道路に近接、六環路に接続
機能	道路—航空—税関国際貨物中枢型基地	海運—道路—税関国際貨物運輸中枢型基地	鉄道—道路貨物運輸中枢型基地	海運—道路貨物運輸中枢型基地
主な役割	北京市及び環渤海地域にある国際、国内の航空物流を担う	北京市及び環渤海地域の国際、国内の海運物流を担う	北京市の南西方面の重要な道路貨物拠点と鉄道コンテナ拠点	東部発展区域の重要な物流拠点。保税物流を担う
主要な取引先企業の立地場所	・天竺工業開発区	・北京市の南東方面京津塘経済発展区域 ・亦庄経済技術開発区	—	・順義区、懷柔区、平谷区、密雲区 ・京津発展ルート

出典：「北京市第十一次五ヵ年物流開発計画」より作成

注：京津塘高速道路は北京—天津—天津塘沽高速道路、京広鉄道は北京—広州鉄道、京石高速道路は北京—石家荘高速道路、101国道は北京—瀋陽（879 km）、京津高速道路は北京—天津高速道路、京哈高速道路は北京—ハルビン高速道路をそれぞれ示す。

② 総合物流配送区及び專業物流配送区計画の概況

五環路及び五つの物流方面の合流地点に9ヶ所の総合物流配送区を計画している。総合物流配送区は貨物集散、道路—鉄道の運輸、積換え、倉庫、流通加工、情報サービス、配送などの機能を持っている。

また、四環路と順義、通州、亦庄など新城及び遠郊区県にある人口密集地に15ヶ所の專業物流配送区を計画している。專業物流配送区は倉庫、駐車場、流通加工、配送などの機能を持っている。

表4-3 総合物流配送区及び專業物流配送区の位置

	総合物流配送区	專業物流配送区
南西方面（京石高速道路，107国道）	王佐（六環路に近接） 五里店（五環路に近接） 首鋼建材物流センター（四環路）	石樓（遠郊区） 榆樹庄（四環路と五環路の間） 白盆窑（四環路と五環路の間）
南方面（京開高速道路，106国道）	—	南苑（四環路と五環路の間） 大紅門（四環路） 玉泉營（四環路）
南東方面（京津塘高速道路，京瀋高速道路）	十八里店（四環路）	双橋（五環路に近接） 百子湾（四環路） 三台山（四環路と五環路の間）
東方面（京通高速道路）	宋庄（六環路）	—
北東方面（京密道路，空港高速道路，京承高速道路）	懷柔新城（遠郊区） 順義李橋（遠郊区）	樓梓庄（五環路に近接） 豆各庄（四環路に近接） 仁和鎮（六環路に近接）
北西方面（八達嶺高速道路，110国道）	清河（五環路に近接） 馬池口（六環路に近接）	田村（四環路と五環路の間） 四道口（四環路） 福田自動車配送センター（六環路）

出典：「北京市第十一次五ヵ年物流開発計画」より作成

注：107国道は北京—深セン間（2,698 km），京開高速道路は北京—開深間，106国道は北京—広州間（2,466 km），110国道は北京—銀川間（1,357km），京瀋高速道路は北京—瀋陽間，京通高速道路は北京—通州間，京密道路は北京市—密雲区間，京承高速道路は北京—承德間をそれぞれ結ぶ。

(5) 物流基地（団地），総合物流配送区，專業物流配送区の比較

物流基地（団地），総合物流配送区，專業物流配送区について，それぞれの位置づけ，特性，位置，面積，機能，役割から整理すると，下記のようになる。

表4-4 物流基地（団地），総合物流配送区，專業物流配送区の比較

	物流基地（団地）	総合物流配送区	專業物流配送区
位置づけ	・都市の重要インフラ ・全国，国際輸送	・幹線と支線運輸を結びつけ，市内配送と集散運送の便宜を図る	・末端配送サービスを行うための専門的物流施設
特性	・対象貨物は総合貨物 ・複合貨物輸送の拠点 ・大規模 ・貨物処理能力が高い ・倉庫管理能力が高い	・対象貨物は特定地域内の総合貨物 ・特定運輸の拠点 ・比較的大規模 ・貨物処理能力が比較的高い ・倉庫管理能力が比較的高い	・専門化 ・都市生活，工業生産に対応した，専門的な物流サービスを提供
位置	六環路に近接	五環路に近接	四環路に近接及び順義区，通州区，亦庄，遠郊区にある人口密集地
面積	—	0.5~1 km ²	0.1~0.2 km ²
機能	・内陸貿易港 ・積換え ・貨物集散 ・流通加工 ・情報サービス ・配送	・貨物集散 ・道路—鉄道複合輸送 ・積換え，中継運送 ・倉庫管理 ・流通加工 ・情報サービス ・配送	・倉庫 ・仕分け ・流通加工 ・配送
役割	・北京市の出入貨物の集散 ・大手メーカー向け，全国及び国際物流のプラットフォーム	・北京市の出入貨物の集散 ・メーカー向け，北京市及び周辺地区の物流プラットフォーム	・小売，小規模加工業及び市民生活向け，配送サービスを提供

出典：「北京市第十一次五ヵ年物流開発計画」と「北京地区第十次五ヵ年期間物流システム開発計画研究」より作成

5. 北京市の各物流基地（団地）の計画と現状

(1) 各物流基地（団地）の概況

空港物流基地，馬駒橋物流基地，良郷物流基地，馬坊物流基地の4ヶ所の物流基地（団地）の概要は以下のとおりである。

① 空港物流基地

1) 基地の概況

空港物流基地は2002年に建設を開始した。北京市順義区に位置し，計画面積6.2km²（第一期1.55km²）である。航空貿易ターミナル，貨物集散，配送，流通加工，倉庫保管などの機能を中心として，道路—航空—税関国際貨物中枢型である。北京市の北東郊外の首都空港の近くに位置し，天津新港まで160kmとなっている。101国道，六環路につながっている。首都空港の拡張に伴い，中国における国際航空における中核拠点として位置づけられており，首都圏の航空貨物の拠点となる。立地する順義区は北京市東部の開発地域に位置し，現代製造，空港物流，国際展示などの産業が中心となっている。

図5-1 空港物流基地の位置



出典：北京空港物流基地のホームページ

2) 物流基地の機能

主な機能は下記のとおりである。

- ・航空ターミナル機能
- ・貨物集散機能：陸海空の輸送手段で到着した貨物を受け入れ、仕分け、保管を行う。同時に北京市内からの貨物を集約し、北京外へ輸送する。
- ・配送機能：顧客への商品配送サービスを実施する。
- ・流通加工機能：商品の梱包、補強、バーコード印刷など。
- ・倉庫管理機能

図5-2 空港物流基地の立地計画



出典：北京空港物流基地のホームページより作成

3) 段階的開発の内容

空港物流基地の計画は、以下の二段階で進めるとしている。

第一段階：順平路の北に位置している、1.55km²である。多数の3PL企業と電子、通信、医薬の加工企業が立地する。誘致企業は、近代的な物流技術を保有し、高度なサービスを提供できる物流企業とハイテク型の航空輸送関連の電子、通信、製薬、新材料などの加工企業を想定している。

第二段階：首都空港の拡張に合わせて計画されている。航空貨物ターミナル区、税関倉庫区、保税物流センター区などを計画している。航空会社、航空貨物の地上サービス企業、航空宅配企業、国際貨物代行、物流企業、輸出入貿易などの企業を重点的に誘致する。また、航空貨物通関基地は、航空貨物区、航空速達区、輸出入税関倉庫区、保税物流センター区で構成されている。保税物流センターの主な業務は、国際積換え業務、国際仕入れ業務、VMI業務などである。

4) 立地企業

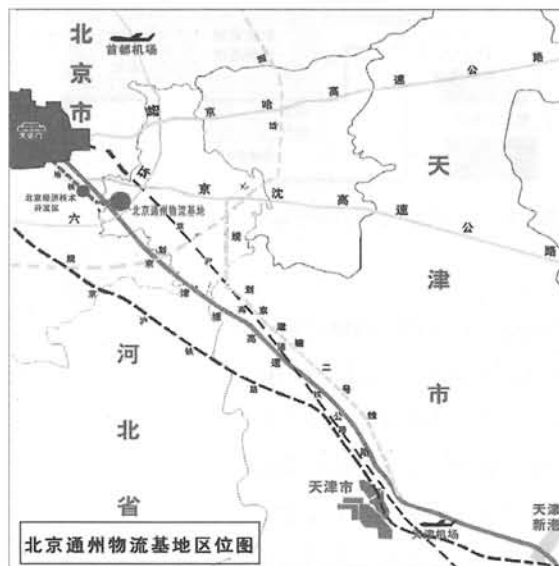
空港物流基地は、航空貨物関連企業を中心として、国際積換え、仕分け、配送業務を実施し、高付加価値型流通加工企業も含まれている。立地企業は3PL企業、航空会社、貨物運送代理、輸入出貿易、ハイテク型製造業などである。2006年3月現在、169社の企業が立地している。そのうち、首都国際空港の建設関連の企業は16社、TNT、日本郵船、住友、近鉄、中外運、宅急送、宝供などの物流企業は93社、また、輸入出貿易や販売、購買などの企業は60社である。

② 馬駒橋物流基地

1) 基地の概況

馬駒橋物流基地は2002年に建設を開始した。北京市通州区に位置し、計画面積5.04km²（第一期2.5km²）である。内貿ターミナル機能、配送機能、流通加工などの機能を中心として、海運—道路—税関国際貨物中枢型である。

図5-3 馬駒橋物流基地の位置



出典：馬駒橋物流基地のホームページ

馬駒橋物流基地は北京の南東郊外に位置し、京津塘高速道路と六環路の間にある。北京中心から15.5km離れ、首都国際空港まで30km、天津新港まで140km離れている。また、京沈、京哈、京开、京石などの高速道路とつながっている。馬駒橋物流基地は、北京東部の発展地域に位置し、北京経済技術開発区（BDA）、北京市機械・電力一体化産

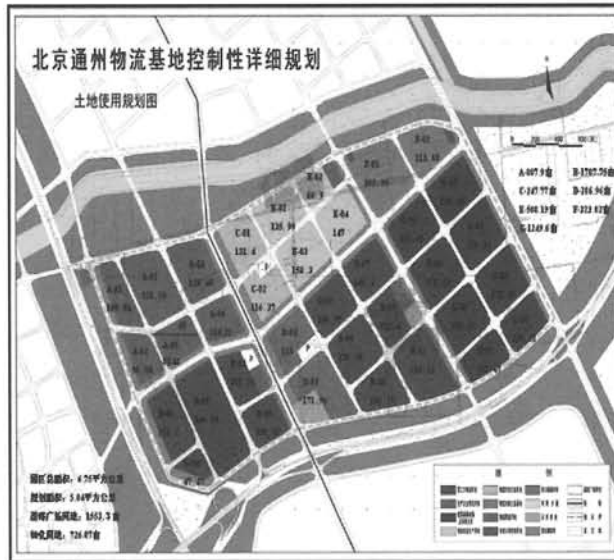
業（OIP）、国家環境保護産業区（CEP）と共に、亦庄衛星都市に属している。周辺にはノキアを中心とする携帯通信工業園，中新国際や中科稼英を中心とする電子情報産業園，ベンツや韓国湯現代を中心とする自動車製造工業園などがある。

2) 物流基地の機能

主な機能は下記のとおりである。

- ・内貿ターミナル機能：今後，税関，衛生検査及び動物植物検疫検査組織を設立するほか，メーカー，小売業者向けの輸配送，保管，流通加工などのサービスが中心となる。北京市東部産業地帯の物流サービスを担う。
- ・貨物集散機能：陸海空の輸送手段で到着した貨物を受け入れ，仕分け，保管を行う。同時に北京市内からの貨物を集約し，北京外へ輸送する。
- ・配送機能：顧客への商品配送サービスを実施する。
- ・流通加工機能：商品の梱包，補強，バーコード印刷など。
- ・商品検査機能
- ・物流情報機能：商品状態の問い合わせ，トレーサビリティ，情報記録と分析，顧客情報管理など。
- ・総合商品貿易機能

図5-4 馬駒橋物流基地の立地計画



出典：馬駒橋物流基地のホームページ

注：3PL物流企業区，物流配送区，物流研究開発区，物流設備生産区，コンテナ・倉庫区，物流運送区，事務区，商業区，緑化区などで構成されている。

基地は内貿ターミナル区、流通企業区、流通企業加工区に分かれている。内貿ターミナル区は114ha、流通企業区は105haで、北京市及び華北地域の消費市場に対応した多国籍小売グループの誘致を図っている。流通企業加工区は53haで、流通企業の加工機能及び、建築材料企業、医薬品、電子、自動車部品関連のメーカーを誘致する計画である。

3) 立地企業

- ・北京祥竜物流有限公司：3.3haの面積を占め、総投資は2.75億元である。メーカー、卸売、小売、輸出入業者に全国的及び地域的な物流サービスを提供している。
- ・北京環捷有限公司：3.0haの面積を占め、総投資は0.52億元である。国内道路貨物運送、貨物運送代理、倉庫業、流通加工、国際コンテナ輸送などが中心。
- ・北京市高速道路交通工程公司：道路交通関連施設の生産、取り付け。
- ・北京首發高新建材有限公司：10.0haの面積を占め、総投資は0.6億元である。道路用れんがが生産が中心。
- ・北京東方信捷物流有限公司：3PL物流企業。電気、建材製品の保管配送を主な業務としている。
- ・北京恒日公司：大型工作機械設備の販売が中心。
- ・北京興貿国際貨物運輸有限公司：海運貨物、道路貨物、航空貨物の国際利用運送が中心。
- ・北京蘇寧電気有限公司：4.7haの面積を占め、蘇寧電気グループ華北チェーンの購買、倉庫保管、運送業務が中心。
- ・北京馳普インターネット技術有限公司：インターネット技術の開発、生産、販売が中心。

4) 今後の展開計画

多国籍商業チェーングループ、国内外の大型商貿流通企業、国内外医薬品、衣料品などの消費材関連の加工貿易企業、国内外大型3PL企業の誘致に取り組んでいる。

また、北京経済技術開発区の発展戦略と連動して、都市の物流サービス機能を発揮し、区域連動を実現することを目標としている。将来的には、天津濱海新区など工業区の連動を実現し、京津の区域の中核になることを目指している。

③ 良郷物流基地

1) 基地の概況

良郷物流基地は2003年に建設を開始した。北京市房山区に位置し、計画面積3.3km²である。貨物集散、配送、流通加工などの機能を中心として、鉄道—道路貨物中枢型である。

北京良郷物流基地は北京の南西郊外の京石（北京—石家庄）高速道路、107国道、京原（北京—太原）道路と六環路の間に位置して、北京中心から22km離れ、首都国際空港は車で40分、天津新港は120km離れている。京九（北京—香港）、京広（北京—広州）、京原（北京—太原）などと鉄道でつながっている。

図5-5 良郷物流基地の位置



出典：良郷物流基地のホームページより作成

2) 物流基地の機能

主な機能は、貨物集散機能、配送機能、流通加工機能である。土地利用計画は、道路貨物運送中核、鉄道コンテナ接点ターミナル及び基地中心区で構成されている。

・道路貨物運送中核

交通省と北京市政府の認定により、第一レベル道路貨物運送主中核に設定された。首発物流中核有限公司の投資額は2.39億元で、用地30ha、建築面積5.3haである。この中核区には総合事務ビル、貨物運送代理ビル、デポ及び他の付属施設を建築する。現在、建設はほぼ完了し、運営されている。

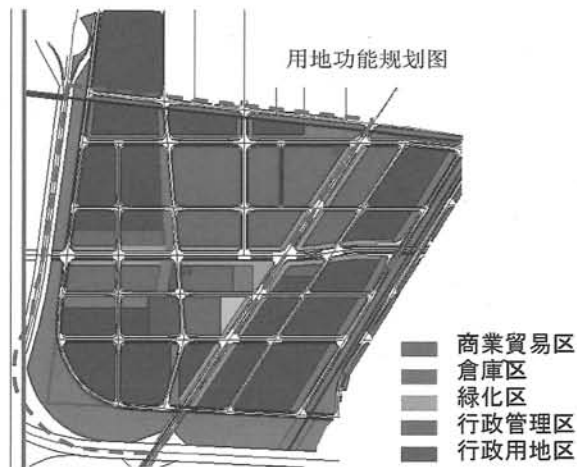
・鉄道コンテナ接点ターミナル

鉄道省の技術支援を受け、北京市鉄道局から、鉄道コンテナ接点ターミナルとして設定されている。

・基地中心区

現段階で、最優先にされているのが基地中心区の建設である。基地中心区は、北側は良坨鉄道、南側は六環路、西側は京石高速道路、東側は107国道に囲まれている。投資額は140億元、用地293.2ha、建築面積240haである。物流基地中心区の計画は道路、鉄道の複合運送、配送及び基地中心区の管理を担う倉庫保管、加工区、商貿物流区及び総合サービス区によって構成されている。倉庫保管、加工区は、道路運送、保管、仕分け、梱包、流通加工、配送及び情報処理などの機能を担っている。商貿物流区は服装専区、生地専区、デザイン専区、倉庫保管専区で構成されている。また、会議展示区もある。総合サービス区は基地中心にあり、行政管理、政策相談、手続代理などのサービスを提供している。

図5-6 良郷物流基地基地中心区の立地計画



出典：良郷物流基地のホームページより作成

表5-1 良郷物流基地基地中心区の土地利用の用地面積

	用地面積 (ha)
倉庫保管, 加工区	82.9
商貿物流区	68.5
総合サービス区	3.2
緑化用地	66.3
道路用地	63.8
広場	1.3
変電所	7.4
合計	293.2

出典：良郷物流基地のホームページより作成

3) 立地企業

香港卓夫グループ、米国JLKグループ、中国澤楷グループが倉庫保管、加工、展示及びサービス施設を建設している。また、米国Ford自動車の中国部品倉庫保管及び配送センター、北京馨強勁自動車倉庫保管センター（北京現代自動車株式会社と協力）も入居している。

香港卓夫グループは中国紡織協会と連携し、中国服装センターを建設している。総投資額は50億元である。中国及び世界のブランド服装、服飾、生地を集積し、国内購買と国際購買を通じて、国内外企業ブランド、企業管理、企業技術開発についての交流プラットフォームを構築しようとしている。

中国澤楷グループは中国包装連合会と連携し、中国包装材料物流センターを建設している。総投資額は20億元である。近い将来、北京市の広安門にある北京包装材料倉庫をこの基地へ移動する。同時に、展示場と取引センターを建設し、華北地域の包装材料物流経営センターとする予定である。

表5-2 基地内の立地企業の概況

項目	土地面積 (ha)	建築面積 (ha)	投資額 (億元)	現 状
1. 商貿物流関連（香港卓夫グループ）				用地予審完了
北京中国服装ブランド商品センター	17.8	45.0	20.0	
北京中国服装ブランド展示センター	15.6	15.0	16.5	
北京中国服装ブランド取引センター	15.8	40.0	13.5	
2. 現代物流倉庫管理、加工関連 （米国JLKグループ）				契約中
物流倉庫保管	20.8	31.2	12.5	
物流加工	19.0	28.5	14.3	
物流配送センター	4.0	1.2	1.9	
インターネットテレビ商品展示センター	5.6	15.7	13.7	
ホテル	6.4	4.9	7.8	
3. 現代物流倉庫管理、加工関連 （中国澤楷グループ）				契約完了
物流倉庫保管、加工	24.3	40.0	15.0	保税倉庫10万m ²
中国包装材料展示	3.2	6.0	5.0	
4. 米国Ford自動車の中国部品倉庫保管及び 配送センター	8.8	13.5	2.0	用地予審完了
5. 北京馨強勁自動車倉庫保管センター （北京現代自動車株式会社と協力）	3.2	4.7	0.8	用地予審完了
6. 物流基地の事務所ビル	3.2	1.0	0.4	
7. 未開発の土地	6.8			

出典：各種資料より作成

4) 今後の展開計画

基盤施設については2006年から準備がなされ、2007年から建設が開始された。各物流施設の建設は、2008年から開始され、2010年完成を目指している。将来的には、倉庫保管施設や加工施設の面積は200haとなり、毎日の出入り車両は2000台に達するとされている。

④ 馬坊物流基地

1) 基地の概況

馬坊物流基地は2004年に建設を開始した。北京市平谷区に位置し、計画面積3km²である。通関、保税倉庫管理機能を中心として、海運—道路貨物中核型である。首都空港の東側に位置し、京津高速道路、京哈高速道路、六環路に接続している。

(2) 物流基地（団地）の開発について

中国の物流基地（団地）の開発パターンとしては、政府が計画し、開発するパターン、政府が計画し、企業が開発するパターン、企業が計画、開発とも行うパターンがある。北京市の物流基地（団地）は、規模が大きく、投資規模が大きいこと、さらに北京オリンピックにあわせて整備を進めたことから、いずれも政府が計画し、開発というパターンとなっている。また、中国の物流基地（団地）の出資主体についても、政府による直接出資、政府による優遇政策の提供、企業による直接出資、政府と企業による提携、共同出資、企業による直接出資といったパターンがあるが、北京市の物流基地（団地）は、いずれも政府による直接出資である。国からの直接の出資、そして税金の優遇政策もあり、北京市の各物流基地（団地）は、他の都市で進められている物流基地（団地）計画に比べて、資金面で潤沢であり、物流基地（団地）の整備も比較的順調に進んでいる。

6. 北京市の各物流配送区の現状

(1) 各物流配送区の位置関係

総合物流配送区及び專業物流配送区についての位置関係をまとめると次のようになる。

表6-1 総合配送区と專業物流配送区の位置

	総合物流配送区	專業物流配送区
海淀区	清河（中関村科学技術園区に近接）	田村，四道口
朝陽区	十八里店	双橋（双橋鉄道ターミナルに近接，四環路，五環路，空港高速道路に接続），百子湾，三台山，楼梓庄（朝陽区工業区に近接），豆各庄
大興区	—	—
豊台区	王佐（京石高速道路，107国道，五環路，六環路，京良路に近接），五里店，首鋼建材物流	榆樹庄，白盆窑，南苑（南苑空港に近接），大红門（鉄道ターミナルに近接），玉泉營
昌平区	馬池口（八達嶺高速道路，京包鉄道及び六環路に接続）	福田自動車配送センター
通州区	宋庄（京通快速路に近接）	—
懷柔区	新城	—
順義区	李橋	仁和鎮（北京臨空經濟中核区に位置する，首都国際空港，101国道，六環路，京平快速道路，京承鉄道に近接）
房山区	—	石楼

出典：「北京市第十一次五カ年物流開發計画」より作成

(2) 総合物流配送区と專業性物流配送区の現状

① 総合物流配送区

総合物流配送区は9ヶ所の既存施設の再整備計画がある。具体的には，以下の概況となっている。

表6-2 総合物流配送区の概況

名称	特徴	面積 物流施設	貨物集散	道路運送	配送	流通加工	商品検査	倉庫	鉄道輸送	国際鉄道輸送	保税輸送	保税倉庫	ビジネス展示	情報サービス	物流金融	Eビジネス	物流コンサルティング
王佐	総合物流	87.3ha	○	○	○	○		○						○	○		
五里店	内陸貿易港	36.6ha 鉄道専用線4.5km	○	○	○		○	○	○					○			
首鋼建材	鋼鉄物流	36.9 ha (第一期19.6ha)	○	○	○	○		○						○			
十八里店	内陸貿易港	—	○	○	○	○						○	○	○			
宋庄	総合物流	—	○	○	○	○		○									
懷柔新城	倉庫管理	—	○	○	○	○	○	○						○			
順義李橋	保税物流	—	○	○	○	○						○	○	○			○
清河	ハイテク製品物流	—	○	○	○	○	○	○						○			
馬池口	鉄道コンテナ物流	—	○	○	○	○		○									

出典：各種資料より作成

② 專業物流配送区

專業物流配送区は15ヶ所の既存の施設を利用し、再整備する計画であり、それぞれの機能は明確となっている。また、近接する地区で発生する貨物対応が中心となっており、対象貨物は、石油・化学品、自動車、図書、医薬品、衣料品、食品などが多い。具体的には、以下の概況となっている。

表 6-3 專業物流配送区の概況

名称	特徴	面積 物流施設	道路運送	配送	倉庫管理	ピッキング	冷蔵冷凍	包装	流通加工	食品加工	情報管理
石楼	石油・化学品物流	—	○								
榆樹庄	図書物流	30ha 倉庫区面積22ha	○	○	○	○		○			
白盆窑	図書物流 医療器具物流	20ha 倉庫区面積16ha	○	○	○	○		○			○
南苑	服装・紡織品物流	53ha	○		○				○		
大紅門	コールドチェーン物流	10ha 冷蔵冷凍施設容量 10万トン 鉄道専用線	○	○			○			○	
玉泉營	コールドチェーン物流	8.7ha 冷蔵冷凍施設容量 10万トン	○				○			○	
双橋	医薬品物流	—	○	○							○
百子湾	鋼鉄建材物流	—	○	○	○				○		
三台山	総合物流	—	○	○							
楼梓庄	工業製造品物流	—	○								
豆各庄	倉庫管理	—	○		○						
仁和鎮	倉庫管理	240ha 新たに建設	○						○		
田村	総合物流	—	○	○							
四道口	コールドチェーン物流	—	○	○							
福田自動車配送センター	自動車物流	—	○								

出典：各種資料より作成

7. まとめ

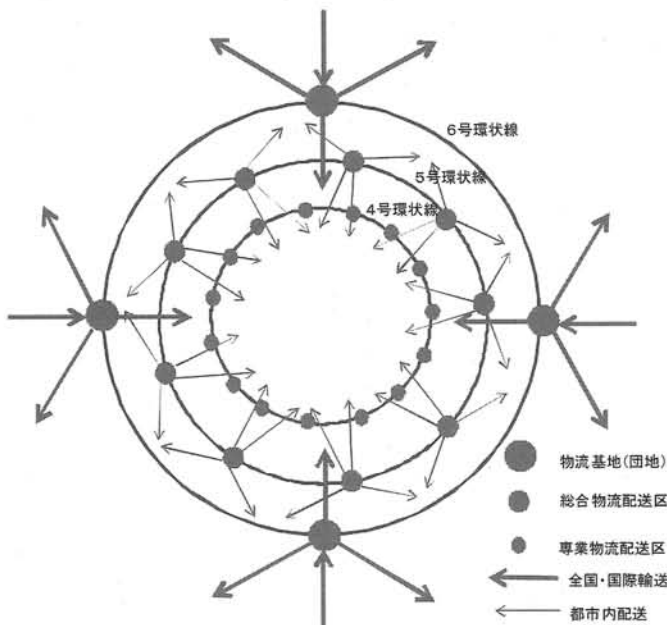
(1) 北京市における物流基地（団地）、物流配送区の全体像

北京市は、交通インフラ、物流の需要、産業の集積にあわせて、物流基地（団地）、物流配送区を計画している。そして、それぞれの機能を設定する上で、点一面、場所一地域を調和し、三環・五帯・多中心、すなわち三環（四環路、五環路、六環路）・五帯（南西方面、南方面、南東方面、北東方面、北西方面）・多中心（産業集中区、ニュータウン）に物流基地、物流配送区を設定することとしている。

具体的には、六環路に近接して物流基地（団地）、五環路に近接して総合物流配送区、

四環路に近接して專業物流配送区を計画，建設する。物流基地（団地）は，国内外から集中する貨物を，北京市だけでなく全国に輸送する広域型拠点としての役割が中心である。綜合物流配送区は，貨物運送の適正化，効率化を向上し，さまざまな物流資源を南西方面，南方面，南東方面，北東方面，北西方面に集中するため，五環路の近くに既存の貨物運送ターミナルを再整備するものである。專業物流配送区は，産業発展，市民生活の利便性確保のために，四環路の近くの既存の貨物運送ターミナルを再整備するものである。

図7-1 北京市の物流基地（団地），物流配送区の全体像



(2) 物流基地（団地）の今後の課題

① 政府による更なる財政支援の必要性

政府は物流基地関連のインフラ整備と運営秩序の維持の役割を担っており，物流基地整備を推進する上においての役割は非常に重要である。物流基地の建設にかかる巨額の資金は，一部の市場からの資金調達を除けば，大半は，政府の財政支援と土地売却によるものである。そのため今後は，政策的な銀行からの低金利の長期借入金に関する支援体制が求められている。

② 土地収用管理の強化

物流基地の整備において必要な政策は，課税面の優遇政策と土地収用の優遇政策であ

り、国の土地政策、課税政策および地方政策が大きく影響することとなる。特に、物流基地のほとんどは農村地域に位置しており、土地収用にあたっての農民に対する補償問題が無視できない。土地の収用管理に対する政策が、物流基地の整備に欠かせない。

③ 物流基地の機能強化

物流基地を発展させるためには、多数の物流企業を集約することが重要である。同時に、物流基地を単なる団地としてではなく、物流を基盤とする産業開発区として総合的に考える必要がある。同時に、総合機能を実現することも必要である。物流基地の機能は道路運送、配送、倉庫管理だけでなく、複合一貫輸送あるいは展示などの総合機能として向上させる必要がある。

(3) 物流配送区の今後の課題

総合物流配送区については、北京市周辺地域の天津市、河北省においても計画がある。天津市は港、鉄道、航空、道路などの物流インフラが整備され、かつ北京市に近接するという優位性をいかして、国際型総合配送区を計画している一方、河北省も土地価格は北京市より安く、競争優位性がある。このように、他の総合物流配送区との企業誘致の競争が激しくなっており、そのなかで、北京市がいかに優位性を保つかが重要となっている。

専業物流配送区については、入居する物流企業の規模が小さく、物流技術、情報化のレベルが低い場合が多い。また、道路運送、倉庫管理、荷役機能を中心としており、今後は流通加工、情報管理などの機能も取り込み、付加価値を高めていくことが課題となっている。

参考資料

- ・「北京市第十一次五ヵ年物流開発計画」
- ・「北京地区第十次五ヵ年期間物流システム開発計画研究」
- ・「朝陽区第十一次五ヵ年時期産業発展と空間配置調整計画」
- ・「豊台区第十一次五ヵ年時期物流発展計画」
- ・「昌平区第十一次五ヵ年商業発展計画」
- ・北京物流協会、北京市農村工作委員会、北京市発展と改革委員会、朝陽区商務局、豊台区商務局、通州区人民政府の各ホームページ